

# 解体新書

## 1 目標

○『解体新書』を通して、蘭学者たちの研究を支えて被差別身分の人々の存在を知る。

## 2 準備物

- ・教科書
- ・資料集など

## 3 所要時間

全1回（50分×1回）

## 4 キーワード

杉田玄白 蘭学者 キヨメ

5 <指導計画>

	学習内容(○) 生徒の活動(・)	教員の学習支援(発言「 」)	留意点(◎)
導入 (5分)	○人体の図などから考える。 ・江戸時代の人体図を見ながら、気付いたことを発表する。	「今の人体図と比べて気付いた点を答えましょう。」	◎腑分け ・20～30年に一度という頻度。 ・小塚原の腑分けでは、大罪を犯した人が腑分けされた。
展開 (40分)	○「蘭学事始」から考えよう。 杉田玄白が驚いた2つの内容について資料を読み、考える。  ○「蘭学事始」を基に当時の医学を考える。  ①個人 → グループ → 個人 ②教師からの解説	杉田玄白たちは驚いた点がありました。それは何だったか。資料から考えましょう。 ・人間の身体がこんなふうになっているとは思わなかったので驚いた。 ・本に書かれていることがすごく正確だったので驚いた。 ・おじいさんの解剖の仕方がとてもうまかったので驚いた。 ・おじいさんの方が、人間の身体について自分たちよりよく知っているので驚いた。 ・オランダ語の医学書に出てくる解剖図は本当の人間の身体とそっくりだ。 ・オランダ語の医学書の正確さに驚いた。 ・おじいさんは、人間の身体についてもよく知っている。 ・おじいさんの物知りと解剖のうまさに驚いた。	◎この2点をつかませたい。 ・オランダ語の医学書『ターヘル・アナトミア』の正確さ。 ・おじいさんの解剖技術のすばらしさと身体の内部を知っていること。 *江戸時代の身分制度のもとで、百姓や町人とは別に身分上きびしく差別されてきたおじいさんは、これまでの経験から人体内部にくわしく、他人には真似のできない解剖技術も、長年の経験と訓練から習得したものであったこと。
まとめ (5分)	今日の振り返りの学習をする。  この解剖の結果「解体新書」ができたことを理解する。	「解剖していたおじいさん(老人)あどんな人でしょうか。」 ・武士 ・杉田玄白の先生 ・オランダの役人 ・差別されていた人 ・虎松	

<参考資料>

- ・「社会科日本史でやってみよう 部落問題学習の授業ネタ2」『解放出版社』
- ・「小学校・中学校 社会 人権・同和教育基本資料 基礎的知識と学習指導案」『東京書籍』